

## Press release

























## グラント・ソントン会計事務所

## 中堅企業・中小企業を対象に、第2回「事業経営に関する意識調査」を世界26カ国で実施

## —2004年の景況感は大幅な改善傾向を示す

- 日本の中堅企業・中小企業の景況感は昨年比大幅改善したが、大企業と異なり悲観論が根強い
- アジア圏はSARSの影響からは回復するものの、国によりばらつき
- インド、オーストラリア、米国は非常に楽観的、EUは未だ弱含み

グラント・ソントンは、中堅企業・中小企業を対象とした「事業経営に関する意識調査」を今年も実施し、世界26カ国のオーナー経営者の景況感が楽観的傾向に大幅回復しているとの調査結果を発表しました。

各国オーナー経営者の景況感		2004年	2003年
	インド	83%	25%
	オーストラリア	81%	50%
	米国	75%	42%
	南アフリカ	72%	34%
	カナダ	62%	41%
	パキスタン	57%	NA
	インドネシア	55%	NA
	香港	51%	-30%
	ニュージーランド	49%	NA
	スペイン	49%	-19%
	英国	49%	4%
	トルコ	36%	NA
	ロシア	31%	17%
	ギリシャ	29%	14%
	スウェーデン	24%	19%
	メキシコ	23%	28%
	台湾	22%	NA
	アイルランド	7%	-9%
	イタリア	7%	-15%
	オランダ	6%	-11%
	フランス	4%	2%
	フィリピン	-1%	NA
	ドイツ	-6%	-37%
	シンガポール	-30%	-8%
	ポーランド	-32%	NA
	日本	-46%	-71%

## ＜国によりばらつくアジア圏＞

- アジア圏は、国によりばらつきがある。香港は、昨年の-30%から+51%へ一気に上昇しており、経済状況が危機を脱したことを示していると思われる。インドネシア・台湾も、前向きな傾向。
- フィリピン・シンガポールは依然として悲観論が強い。シンガポールは、昨年よりも悲観的であると分析されたアジア圏で唯一の国であり、香港とは異なりSARSの波紋を拭い去ることができなかったものと考えられる。
- 日本は-46%と昨年の-71%からは大幅に改善したものの、構造的な問題を抱える経済のために昨年に引き続き最下位。
- 事業の見通しに関しては、昨年と比べて利益面でさらに悲観的な見方をしている。これは経済そのものは改善傾向にあるが、自社の事業については厳しい状況が今後も続く認識しているものと考えられる。
- 大企業経営者に対する同様の調査との比較においては、中堅・中小企業経営者は未だ悲観的な見方をしていると言える。

## ＜楽観的なインド、オーストラリア、米国＞

- 楽観論と悲観論の差では、インドが+83%で首位となった。IT業界を中心として産業が上向きであること、海外からの投資の増大、適度な雨季による経済全体へのプラスの影響などが反映しているものと思われる。
- 2位と3位は、順調な経済・好景気を保っているオーストラリア(+81%)と米国(+75%)が続いている。米国は調査実施時の第3四半期に、ここ20年で最高の7%超の経済成長を遂げたことが反映されたと考えられる。南アフリカとカナダも僅差で続く。

つづく

Grant Thornton 2004  
International Business  
Owners Survey

数値は自国の景気見通しについて（楽観的と答えた人のパーセンテージ） - （悲観的と答えた人のパーセンテージ）

<EUは二極化>

- 昨年よりは楽観的な傾向にあるものの、景気回復は未だ弱含み。
- 今回、調査対象となったEU7カ国のうち、ドイツ・フランス・オランダ・イタリア・アイルランドの5カ国が、世界で最も悲観論が強い10カ国にも入っている。中でもドイツは、楽観論と悲観論の差が-6%で、最も悲観論が強いという結果となった。
- EU外の国では、英国とスウェーデンが、それぞれ+49%、+24%と楽観論が強い。
- 欧州全体としては英国とスペインが+49%で、最も楽観的傾向が強いとの結果となった。

<グローバル全体での傾向>

- グローバル全体で見ると、平均では楽観論と悲観論の差は+39%で、昨年の+3%という結果に比較すると景況感に大きな改善が見られる。これは米国の好景気の影響を受け、グローバル経済が復活の足どりを歩み始めたことを示していると思われる。
- 欧州の景気も前向きであるが、米国に比べると慎重な見方をしている。
- アジアでは、個々の国々の違いや、地域を同一ブロックとしてとらえることができないという点を理解することが事業活動の上でも重要であることが示唆されている。

###

<オーナー経営者の事業経営に関する意識調査－概要>

実施期間： 2003年9月1日～10月31日  
参加国数： 26ヶ国  
対象： 6,600名のオーナー経営者  
調査実施会社： 日本では株式会社日経リサーチが実施。調査の一貫性保持のため、国際的な調査会社である Wirthlin Worldwide が取りまとめを行った。

**グラント・ソントンとは**

グラント・ソントンは世界第6位にランクされるグローバルな会計事務所グループであり、オーナー企業および独立系企業を中心に監査、税務、その他会計コンサルティングサービスを提供しています。本拠地を米国シカゴに置き、世界110カ国、585拠点、21,500人の従業員を擁します。各グラント・ソントンの拠点は、全世界で共通の高品質なサービスの提供にコミットしており、クライアントの全世界あらゆる場所におけるビジネスの展開をサポートします。

日本では ASG グループ (ASG 監査法人、ASG 税理士法人、ASG マネジメント株式会社、ASG アドバイザーズ株式会社) が、グラント・ソントンの日本メンバーとして世界水準を導入した会計コンサルティングサービスを提供しています。

**グラント・ソントン ASG グループ**

所在地：東京都千代田区永田町2-14-3 赤坂東急ビル12F

代表：徳永 忠昭

グループ会社：

ASG 監査法人、ASG 税理士法人、ASG マネジメント株式会社、ASG アドバイザーズ株式会社

URL: [www.gtjapan.com](http://www.gtjapan.com)

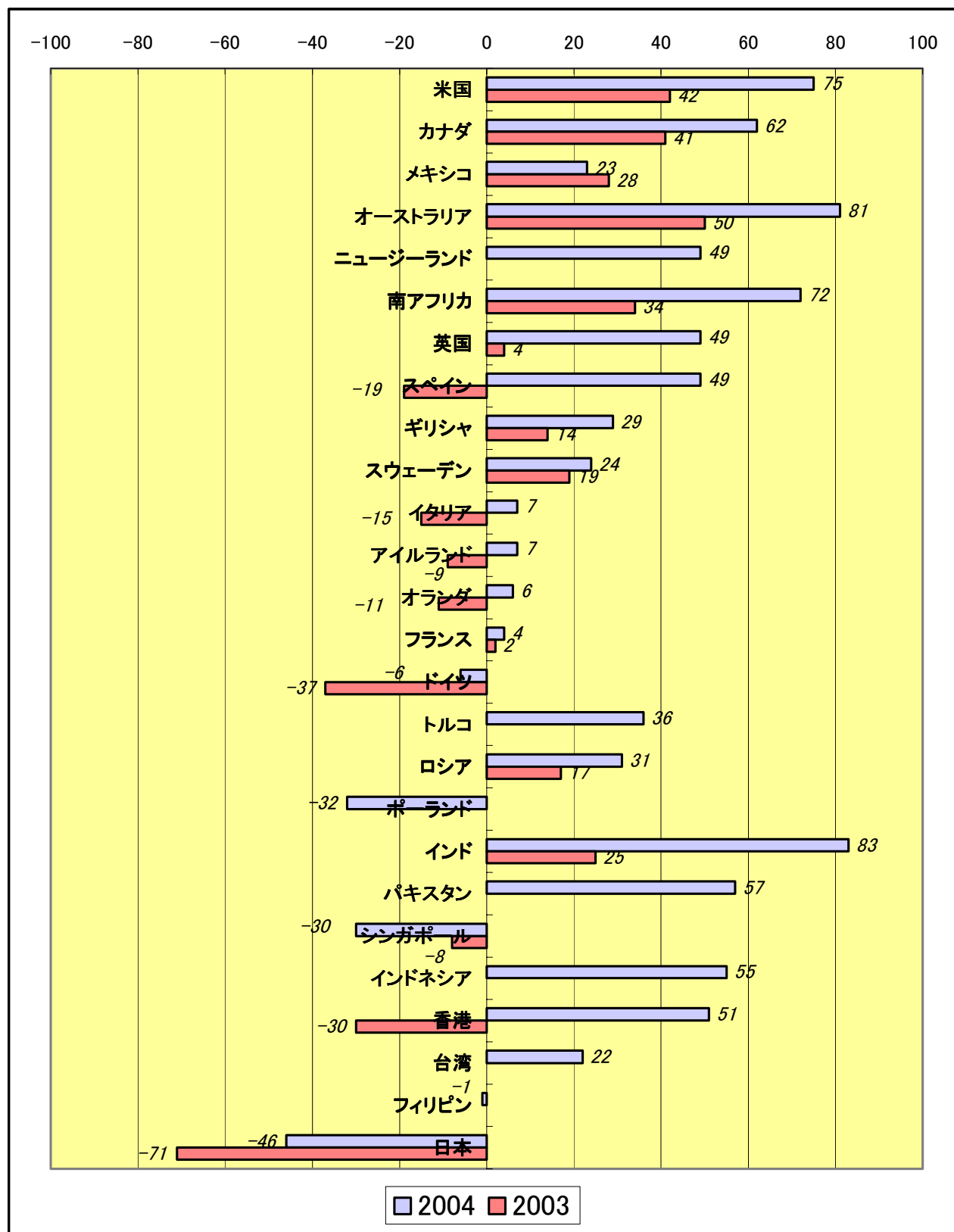
<本件に対する問い合わせ先>

グラント・ソントン ASG グループ  
マーケティング・コミュニケーション担当 田代 知子  
TEL 03-3595-0304 FAX 03-3595-0395

【参考資料1】

中堅企業・中小企業経営者の景況感(各国別比較) 単位%

<数値は各項目について(楽観的と答えた人のパーセンテージ)-(悲観的と答えた人のパーセンテージ)>



## 中堅企業・中小企業経営者の事業経営に対する見通し(日本) 単位%

<数値は各項目について(楽観的と答えた人のパーセンテージ)-(悲観的と答えた人のパーセンテージ)>

